

第 1 回かづの未来会議での意見（概要）

○人口について

- ・ 適正な人口はどの程度なのか、どの程度の人口規模であれば今の市政を維持していけるのか、具体的な目標が必要ではないか。
- ・ 人口減少はある程度仕方のないこと。未来の家族が鹿角に居住し続けていることで、幸せを感じられていることが重要。
- ・ 高齢化社会が進展する中で、高齢者が持つ豊富な経験や知識を活かすことは地域社会にとって大きな資源となる。市内の生産力に寄与しており、生産年齢人口の捉え方を変えてもいいのではないか。

基本戦略 1_活力を生む地域産業・生業を支える

- ・ 都会にいるよりもよっぽど豊かな暮らしをしていると感じている。安定した仕事や頼れる実家があれば、安心して帰ってこられると思うので、地元の企業が魅力の向上や発信に力を入れてくれれば、鹿角に戻ってきてくれる人が増えるのではないか。
- ・ 鹿角を出て行ってしまいう人は、鹿角で暮らしていくビジョンがうまく見出せていないのではないか。このような部分から、地域産業についてもっと深く考えていく必要がある。
- ・ 職種の少なさや給料の安さがネックで、どれだけ鹿角に魅力があっても経済的に安定していないと若者は鹿角に残りたいとは思えない。Uターン就職してくれた若者に経済的な支援が必要ではないか。
- ・ 地域経済の活性化には、高齢者が持つ知識や経験を最大限に活かすことが不可欠。高齢者の就労を支援し、安心して働ける環境を整える必要がある。
- ・ 外国人技能実習生など、これからはそのような人たちをあらゆる分野に登用することも必要。

基本戦略 2_元気で健やかな暮らしを支える

- ・ 鹿角市から産婦人科が無くなり、市内で出産できなくなったことが、子育てに対するマイナスイメージにつながっているのではないか。
- ・ 実際に住んでみると、保育料の無償化や高校生までの医療費の免除など、子育てのしやすい環境だと感じる。若い人にまた鹿角に戻ってきてもらえるよ

うに、子育て環境の良さをもっと発信していければよい。

- ・ 鹿角市は、人の温かみがあり、地域住民の絆が強い一方で、過干渉になってしまっていたり、個人情報筒抜けになっており、プライバシーが侵害されてしまっていると感じる。その側面が若い女性にとって印象が悪く、女性のUターンや移住が少ない要因の一つではないかと思う。
- ・ 障がい者の就労について、企業の理解や受け入れ態勢が整っておらず、就職先が狭まってしまう現実がある。また、通勤には車が必要となるが、運転免許の取得がままならない方はバスでの通勤となる。交通弱者のために、公共交通の改善が必要。

基本戦略3_快適で安らぎのある暮らしを守る

- ・ 高齢者や障がい者が安心して移動できる社会を実現してほしい。
- ・ 地域コミュニティの資金不足により、ライフラインを維持できなくなったり、農地を維持できなくなってしまうと危惧している。熊への一般的な対策方法として、地域での草刈りなどの環境保全があるが、今後は難しくなるので、個人単位で自衛手段を持つ必要がある。
- ・ 転勤で鹿角に引っ越してきたが、実際に暮らしてみて豊かな自然の良さを感じている。このことを自分も発信していかなければと思っている。
- ・ 若い猟師の育成・獲得が必要。昨今、熊被害が多い中で、ジビエなど駆除した熊の利活用について考えられないか。

基本戦略4_暮らしの安全・安心を高める

基本戦略5_未来に羽ばたく人材を育てる

- ・ 鹿角市は、児童に対する教師数の割合が高く、一人の児童に教師が手厚くカバーできることで、質の高い教育につながっていると感じる。

経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む

- ・ SNSなどのつながりで「関係人口」は増やせるが、本市を訪れて事業活動などの関わりに深化させる仕組みが重要。
- ・ 食料だけでなく、エネルギー自給率も400%あり、必要最低限の生活が自己完結できることが鹿角市の魅力で、その部分の周知が大切だと思う。

- ・ 鹿角市の魅力は豊富だが、魅力発信の目的が観光施策なのか移住促進施策なのか明確でない。それぞれに特化した発信をすることで、より効果的な結果が得られると思う。
- ・ 市内にある資源・財産を有効活用し、持続可能な市の運営について考えていかなければならないのではないかと。

経営戦略2_「世界遺産のまち」をつくる

経営戦略3_まちの経営力を高める

- ・ 自治会も加入者が減っており、何かイベントを行うとなると、行政にお願いしなければならない雰囲気があるが、行政の対応にも限界があると思う。自治会の機能回復ができれば、人口減少や空き家、熊対策などの解決が見えてくるのではないかと。